

## 貪瞋痴

こんにちは、齋藤友蔵と申します。

本日は三大煩悩の貪瞋痴のお話させていただきます。

私達はみな幸せを、心の安住の世界を求めて人生を過ごします。

仏教はの最終目標とされている、「涅槃寂靜」の境地は、煩悩が消滅した静かで安らかな状態のことです。

涅槃とは、煩悩の火を吹き消して、智慧を完成すること。

寂靜とは、人の本能から起こる精神の動揺と、感覚的な苦しみの原因を断ち、安らかで静けさに満ちた状態をさしています。

つまり、涅槃寂靜とは、煩悩が消滅した静かで安らかな境地のことです。

この煩悩から開放されさえすれば、安住の世界があることがわかっているにもかかわらず、なかなかそこに到達することができません

おごり高ぶる心、他人を疑う心、執着する心、自暴自棄、気分の落ち込みなど、煩悩をあげるとキリがないようにさえ思えます。

仏教では、貪瞋痴のことを煩悩の三毒とよんでいます。

それはむさぼり（貪）、いかり（瞋）、おろかさ（痴）のことです。

その三大煩悩が、あたかも満月が黒雲に覆われて見えないように、本来は清浄な真実の自分を覆ってしまっています。

私たちが生まれたときからもっている煩悩の源とされ、そしてこの三毒から 36 の煩悩が現れると説いています。

皆さんに煩悩って一体いくつあると思うの、と問うと、たいていの方は 108 つとお応になります。そんなにたくさんあると大変ですね。

貪瞋痴の貪は貪欲のどんです。

限りなく欲しがることをどんと言っています。

貪欲に勉強する、貪欲に練習するのであれば良いのですが、物やお金を欲しがり、満足しないことですね。

瞋は怒るということです。

痴は真実を知ろうとしないことです。やまいだれに知ると書きます。知ることについて病がある、つまり真実を知ろうとしないことですね。

玄奘三蔵が、中国からインドのナーランダへ仏教を勉強しに行く物語、西遊記の中に豚と猿と河童をつれていきます。

この三匹の動物が貪瞋痴をあらわしているのです。豚は貪欲を、猿、孫悟空は怒りを、河童は無知を現しています。

わたしたちは生まれたときから、この三毒をもって生まれてくるのです。

そして、この三毒が起因となって36の煩惱を生むと考えられています。ではどうして108煩惱かと申しますと

私たちの時間は昨日と今日の間を生きているから、36の煩惱に過去、現在、未来の3をかけて、108煩惱という言い方をしています。一秒でも過ぎ去った時間は過去ですし、一秒でも先は未来ですね。

欲しいと思ったものは本当に必要なものか、怒らなければならなかったのかどうか、本当に理解しているかどうか、

貪瞋痴に振り回されず生きていくならば、心の平安と幸せを、涅槃寂静の境地を見ることができるようでしょう。